

「無言館」シリーズ 3・・・必ず帰って続きを描くよ

□今回は『祈りの画集 戦没画学生の記録』から『テノールソロと混声合唱のための組曲「無言館」』の「第一章 無言館」の主題になっている「無言館」と「日高安典氏の絵画」を載せます。若園さん提供の資料とインターネットに取材しています。

.....



中世のヨーロッパの僧院を思わせる「無言館」



館内は撮影禁止なので、館内の様子がわかる貴重な写真

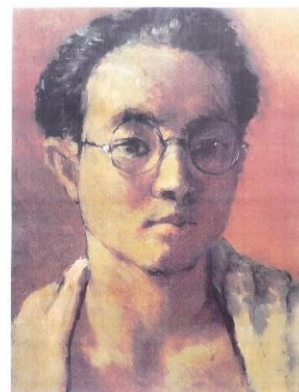
必ず帰って続きを描くよ

日高安典氏

種子島出身。昭和20年4月19日フィリピン・ルソン島で戦死。27歳。

日高青年には憧れていたモデルがいたという。かなりの執着をもって絵具を塗り重ねた一枚のこの絵（以上は「祈りの画集」から引用）のモデルがその人であろう。かならず帰って続きを描くからと言い残して出征して行った。

雨が多い種子島での長年の年月で、原画はカビて、絵具が抜け落ちている。世に紹介されている絵は修復されたり複製されたりのものだが、33年前に撮影され「祈りの画集」に収録されたこの写真のほうが日高青年のみずみずしい情念が伝わってくるようで好きである。



自画像（複製）